

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500163		
法人名	(株) ユーアンドアイ		
事業所名	アイフロント神田		
所在地	大阪府池田市神田3丁目2-2		
自己評価作成日	平成28年1月4日	評価結果市町村受理日	平成28年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リビングに「その人の今を大切に！そして笑顔に！！」と言う理念を掲げ、利用者の方の思いや気持ちを汲み取りケア対応しており、極力希望や願いは叶える様にさせて頂いています。利用者の方が住みやすく居心地の良い空間や環境作り・施設に置いてご本人が必要とされているとの思いを持って頂けるよう、様々な事柄に協力を求め実践しています。職員自身が謙虚な気持ち・謙虚な姿勢で望み、利用者の方はお客様との思いから気持ちのこもった細やかな気遣いや心配りで対応を心掛け、絶えず笑顔のおきる癒しの環境づくりを目指して日々努力させて戴いています。施設に置いて様々な事が起きますが認知症と言う病気がさせている事を念頭に置き、その方の不安やいらだち・帰宅願望を取り除くよう心のこもったケアを実践しており、おもてなしの気持ちを持ってケアするように指導しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入所者を「高齢者、弱者」と見ないで9LDKの大豪邸に住む家族として、お互いに気持ちをわかり合える関係を築きたい、限られた時間と空間の中で有意義に楽しく過ごしてもらいたいという、管理者の思いが強く感じられる。特筆すべき点としては運営推進会議に全利用者とはほぼ全員の家族の参加があることで、日曜日の午後からという時間設定や、行事や日常の写真を多用したわかりやすいレジメづくりなどの工夫が見られる。双方からの意見や要望が活発に出ている。開設後3年になる若い事業所で、入所者も元気で、できることがたくさんある今だからこそ、「その人の今を大切に、そして笑顔に」という理念の実践がさらに向上することを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに「その人の今を大切に！そして笑顔に！！」という理念を掲げ、利用者の方やご家族の思いを汲み取り、癒される空間の提供、安心・安全・楽しく過ごされ笑いのおきる場所の提供を心がけています。	理念はリビングの壁に大書して貼っているほかに、入所案内、運営推進会議資料などにも赤字で書かれている。家族からも、「利用者スタッフはいつも仲良く過ごしている。笑いが絶えない」との発言がみられ、実践にむすびつけられていることがわかる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設自身が町会の会員になり、地域の情報や回覧板などを回して頂き、近隣の歩道などの清掃もさせて頂いています。散歩時には地域の方と挨拶を交わし、農家の方からは野菜などを時々頂いています。	町会の一員として日常的に活動し来年度は班長が回ってくるらしいとのことである。ボランティアの受け入れや、地域に向かっての活動はこれからの課題で、3月のひなまつりに銭太鼓のボランティアに来てもらうことが決まっており、今後積極的に取り組むとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員さんの中には、神田地区お住まいの市議にも参加して頂き、様々なお話をさせて頂いております。地域のイベントにも参加させて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回年6回を基本として運営推進会議を開催しており、ご家族が参加し易い様に日曜日の午後から開催し、その中で施設の事柄について報告し、委員さんからも様々な情報や意見等を頂きそれを下に利用者対応に活かしています。	参加者は地域行政代表として市議員と地域知見者として、出入りの薬局のほか、全員の利用者と家族と事業所側である。町会関係には出席要請はしているが参加はない。利用者家族からは意見や要請が活発に出ている。	参加者の中に市町村または、地域包括センター職員の参加は重要である。出席が実現するように働きかけることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	池田市民間型事業所連絡会IGH(池田市協賛)にも参加させて頂いており、池田市の介護保険課さんにも、些細な事柄でも電話をしたり足を運ぶようにしており、担当者の方とは様々なお話もさせて頂いております。	法令解釈などで疑問点があればすぐ聞くようにしている。管理者は地元出身で市役所にも知人が多いので時折役所に顔を出し情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止のスローガンを掲げ施設において身体拘束は如何なる場合でも致しません。玄関の施錠においても、夜勤者が1人になるまで施錠は致しません。ただし利用者の方が不穏になり帰宅願望が出た時には施錠致します。	安全第一の観点から、入所時に書面で同意をとって、全員にベッド柵を使用している。ベッドの一面は壁に接しており開放側の頭部と脚部に2本の柵をしている。柵の中央は一人が入り出できるほどの空間がある。これが拘束に当たるかどうかの確認はとっていない。	市に柵の使用が拘束になるのかどうかを確認し、どちらの場合でも正しい対応をすることを望む。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホールでの状態や気付き・入浴時に置いて身体的異常があれば速やかに報告するようにしており、昨年新聞並びにTV報道で沢山の施設虐待があり、それを受け施設内虐待研修も徹底して行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各施設内・施設外研修においては職員が参加できる体制を整え利用者に対応できる制度があれば対応するように心がけています。今現在お一人の利用者さんには成年後見人制度を活用させて戴いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族とよく話し合いながら重要事項から説明をさせて頂き次に入居契約をさせて頂いています。確認を取りながら説明させて頂いています。不明な点があれば電話でも説明させて頂きますと伝えてあります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議やご家族が来所された時に利用者の様子を伝え、ご家族の希望や要望もお聞きし、ご家族の希望や要望はミーティング時に職員に伝え対応するようにしています。	運営推進会議にほぼ全員の利用者家族の出席がある、意見や要望が活発に出されており、その都度適切に対応している。お便りを毎月出し、写真が多用されていて様子がよくわかると好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝(9:00)の申し送り及び毎夕の(17:30)ミーティングを行い、申し送りや気付き、意見等を職員から聞くようにしています。良い意見や改善提案などは、すぐにできる事はすぐ対応し、時間のかかる事柄は後日対応しています。	毎日のミーティングでは、業務全般についてよく意見がでる。それらは連絡ノートに記載し出していない職員にも共有化している。個人面談は特に設けていないが今のところ職員数も少ないのでよくわかりあえているとのことである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ての職員に対して会社独自の査定があり、時折見直しを行っています。最低でも年1回の査定があり、それを下に給与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修については職員全員が参加できないので個別体制を整え各研修を行っており、時折プチテストなども行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	民間型・池田市グループホーム連絡会(IGH・池田市協賛)に所属し、3ヶ月に1回会合に参加しています、その時に施設事例や討論会など行い、施設さんと様々な事柄に対し、お話しさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず利用者・ご家族と面談を行い、希望や要望・現在困っている事などを話し合うようにし、デイの様に何度かご家族と一緒に来て頂き、数時間過ごして頂いたうえで入居につなげる方も居られます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前には、ご家族に対し興味・関心チェック表を用い利用者の生活歴をお聞きして、利用される方が違和感なく施設に溶け込めるような環境を整えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の現存する能力を見極めたうえで、必要とされる対応をミーティング時に職員と一緒に考えるようにしています。利用者の生活歴や情報はご家族より伺い職員全員が把握しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方と職員は家族との思いから、利用者の方には、出来るだけ役割分担して頂きその方のできる事を手伝って頂いています。施設において、その方を必要としている事をわかって頂く努力をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方も施設に関わって戴き、ご家族の協力の下、職員と共に利用者の方を支えています。普段から様々な事柄に関わりを持って頂けるようお願いをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の知り合いや、遠くのお友達など馴染み深い方たちが時折訪ねてこられたり、赤ちゃん連れでお孫さんも来られます。お好きな場所で、そのひと時を過ごして頂いています。	入所前のことは、それまでのケアマネや医療機関、家族、本人からの情報で把握している。墓参や馴染みの場所の訪問は家族の協力を支援しているが、家族のいないケースは事業所が関わっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時おり口げんかもありますが、利用者さん同士大変仲が良く、お互いにかばい合っている場面も有、利用者の方職員も含め大家族と言う気持ちで対応させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族と道で出会った時などは時間の経つのも忘れ話し込んだり近くに行った時などは何うようになっています。退所されたご家族さん等はアイフロント神田に出来たら戻りたいと言って頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	興味・関心チェック表を基に利用者の方とよく会話をし、その中から生活歴や好きな事・趣味などを、さりげなく聞き出すようにケアに役立てています。又聞き出せた情報は職員で共有しています。	時折、その人の今の思いを聞いて書き出し、家族の協力をえて実現している。例として、高級すしやに行きたい、景色の良いレストランでの食事をしたい、美術館へ行きたいなどの希望があった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	興味・関心・生活歴チェック表を下に、ご家族に記入して頂き、ご家族からも利用者の生き様を詳しく聞き取り調査させて頂いています、それを下に対応に反映しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや、見た目の判断、利用者との会話の中からその日の状態の把握に努め対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その方の状態を把握したうえで、ご家族も含め担当者会議を行いそれを下に介護計画書の作成をし、3ヶ月に1回見直し、状態の変化等がある時などはその都度変更するように心掛けています。	入所時に本人家族から聞き取りし、スタッフからの情報も参考にアセスメントシートから介護計画書を作成する。毎日のミーティング時にカンファレンスし毎月モニタリング、家族も含めた担当者会議をへて、更新している。ケアマネも介護に携わるので状態把握がしやすい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送りや夕方のミーティングで情報交換し個々の記録用紙を下に状態の変化等の把握その都度介護計画書の見直し・変更も行う日々の対応も、毎日その方に合った柔軟な対応を心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の方の状態は毎日変化するのでその方に合った柔軟な対応を心掛け、日々の状態や能力を把握し日々のケアに繋げています。毎日の対応にも変化が見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	池田市さんや北神田町会さんと連携を取り、安心して池田の地で末永く過ごして頂ける支援をしています。町会の回覧板も良く回して頂き、その方が施設に必要な人である(役割分担)対応をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設外の主治医の下には、基本ご家族対応ですが、対応困難の場合は施設職員で対応し、豊中緑ヶ丘病院とも連携が取れており、又持ち込みのお薬も提携している調剤薬局さんが対応し管理しております。	入所時、希望があれば、今までの主治医を継続することも可能であることは説明しているが、現在内科医は月2回の往診を全員が受けている。歯科は食事提供の必要から1度は無料で検診を受けてもらうが、その後の受診は希望者のみとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	アイフロント神田には看護師は居りませんが他の施設に看護師が居りますので些細な事柄でも普段と変わる場合は、看護師とよく相談の上対処し、受診した方がよい場合は病院受診しています。訪問診療の先生にもよく電話し指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、施設での全ての情報を持って行き退院時には必ず看護サマリーやカンファレンスを頂くようにしています。病院とも連携が取れており地域医療の相談員さんとも良くお話しさせて戴いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と医師・施設長と協議話し合い、看取りの状況のできることで出来ない事を十分説明しターミナルケアの契約を締結し、その方がその方らしく終末期を迎えられる、お手伝いをさせていただきます。昨年1名の方の看取りをさせていただきました。	重度化の指針はあるが、入所時は元気な人ばかりなので「看取りまでさせていただきます」という説明にとどめている。1件の看取りは急だったこともあり、契約その他はできていなかった。今後、体制を整えていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所に緊急手順・緊急連絡網を張り出し職員全員が対応出来る様に施設長指導の下心肺蘇生の仕方初期対応の仕方などを話し合っています。施設内では3名の職員が普通救命講習修了書を持っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町会やご近所の方に火災や災害時の協力をお願いしています。北神田町会にはご家族了承の下、利用者情報(顔写真・お名前・年齢のみ)を開示しています。職員には避難場所を研修の際に伝達しております。	開所後まもなく入居者も少なかったのが今までは自主訓練としていたが、来年度からは消防署と連携した正式な訓練を実施するとしている。両隣の大家さんは有事の際の協力者として心強い味方である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩との思いから尊敬や敬いの気持ちを持って対応する旨普段から指導しており職員自身が言われて嫌な気持ちになる言葉は決して使わない様にし名字で呼ぶようにしタメ口などは厳禁にしています。	接遇マニュアルを作り入職時に研修するほか年1回くらいは全職員に話をする機会を持つようにしている。不適切な事例があれば、その都度個人指導する。書類は利用者の目に触れることを考えて表紙に名前ではなく番号で書くなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方とゆっくり会話をし、普段から何をすることも相談しており、答えを待つような対応を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お家のごとく暮らして頂き、起床・就寝時間も決めておらず、その方が眠そうになれば就寝を促すようにしています。一日まったりと過ごして頂けるよう支援しており上から目線や押しつけな対応は厳禁にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の暮らしの中から職員がその方のお気に入りの服やアクセサリを把握し、身に着けるように促したり、ご自身で考え身に着けて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にはメニューの説明をし皆さんそろって「いただきます」を言ってもらっています。食事後には利用者の方と共に後片付けをしています。	食中毒防止の観点からクックチルを利用し、朝食、炊飯、味噌汁は事業所で作っている。今後、独自の献立でみんなで調理を楽しむ機会を多く持ちたいとしている。職員も一緒にテーブルで同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は1日1000ccを目標にしており食事量も管理を行い水分量や食事摂取量が足りない方については職員が促し適正量をとれる様に対応しておりますが無理強いはいしない旨指導をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には「歯磨きしてね」と声掛けをし、口腔ケアを促しております。毎金曜日には訪問歯科の先生に来て頂き、歯の状態も見て頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しトイレに行く事を促しています、できる限りご自身の力で排泄して頂けるよう職員一同努力しています。オムツからリハパン、リハパンから下着になるよう支援しています。	現在はリハパン、パット、布パンツと3段階の人がいるがどの場合も本来の姿(自立してトイレ使用)に戻したいと支援している。入所後機能が向上している例が多数見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつや食事にも気を遣い、便秘改善ができるようなものを取り入れ水分補給も1日1000ccをめどに対応し、また普段の体操やレクにも便秘が改善される様な事柄を盛り込んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の方に相談しながら、決めており決めていても「今はいや後で」と言われる利用者も居られ、中にはその日に入浴されない方も居られ入浴を拒否された方については翌日入浴を促すようにしております。	浴室は明るく、窓を開ければ、隣の青々した野菜畑が目に入り、露天風呂のようである。広い脱衣室の床は本当のお風呂やさんと同じ様に植物素材を使っており、足に心地よい。週2回以上の入浴でできないところのみ手伝うという支援を心掛けているしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中眠たそうにされたり・疲れられたり・熱がある時などは、ベッドで横になるよう促しています。就寝1時間前にはお部屋のエアコンもつけ、快適に就寝できるように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局さんと提携し利用者さんの薬を管理しています。月～日曜日のケースを作り、朝・昼・夕と仕分けし管理しています。飲み忘れがない様に対応させて頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の有する能力を把握したうえで、掃除機掛け・モップ掛け・洗濯物干し・洗濯物たたみ・食事後の後片付け・食器洗い等その方のできる事をして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩やご家族と出かけられたり、外泊をされたりもして頂いており、ご家族との関わりを大事に考えています。利用者さん職員全員で外出したりと企画を考え対応しております。	ほぼ毎日、利用者とスタッフ1;1で散歩に出かけている。出不精の人にもいろいろ工夫して全員出かけられるるよう努力している。紅葉狩りや五月山へのピクニックなども実施した。家族の協力を得て個人の希望にも添えるようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本施設にはお金を持ち込まない様にして戴いていますが、外出時などはご家族に依頼し、おこずかいを預かり、外食や買い物をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が書かれた、葉書・手紙などは一緒に投函しています、たまには知り合いなどからも手紙が届いていて、電話等も掛けたり、かかってきた時には取り次いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い場所に食卓を配置し、季節の旬の草花などを飾るようしており、また利用者の方と一緒にお花を植えたり、季節感のあるカレンダーを利用者の方と作りホールに飾ってあります。	食事をするテーブル(ダイニング)とソファの置かれたリビングに分かれていて、利用者はそれぞれ思い思いの場所で寛いでいる。毎日9時から利用者も一緒にみんなで掃除し明るく清潔に保たれている。手作りの作品が季節感を表している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓とソファの配置を考え少し距離を取り、ご自身の好きな場所でくつろげるよう工夫しています。又お部屋で寛いでおられる方に対しては、食事やおやつ、レク時に声掛けをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設のお願として今迄使われた馴染の物を持って来て頂きたい事を伝え、ご家族の方も必ずお部屋に置く物は職員に置いても良いか確認をされ、どのお部屋も今まで使っていた馴染の物を置かれています。	個室の表札は管理者の手作りでその人らしさが表れている。冷暖房や洗面台、通報装置のほかベッド、寝具、カーテン、衣装ケース、ハンガーラックは装備され、あとは身の回り品だけで生活できるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の至る所に手すりをつけ安全・安心に歩行できるようにしており、ご本人のできる事を把握したうえで、できる事はして頂くよう支援しています。利用者の能力を見極め役割分担を頂いています。		